

夏の甲子園、東北勢は8強に2校が入る活躍を見せたが上位校の壁は厚く、準々決勝で姿を消した。東北の人々は皆「今年も甲子園優勝旗は白河の関を越えられなかったか」と肩を落とした。

東北勢は甲子園で優勝したことが一度もない。全く歯が立たないわけではない。第1回大会の秋田中学を皮切りに準優勝校は何校もあり、近年は12年連続で8強入りを果たしている。それでも不思議と優勝はできない。「甲子園の優勝旗は白河の関を越えられない」というシンクスは全国的にあまりにも有名である。

### 忘れ去られた白河関

白河関は福島県南部県境の白河市に存した古関であり興



松平定信がこの地を関所跡と定めた旨の石碑

州3古関の一つとして名高い。関所といっても近世のものではなく実際に運用されていたのは7・8世紀、奈良平

## ～文化的歴史的所産を巡る～ 残したい情景

第21回 福島県白河市



一般財団法人 日本不動産研究所

3<sup>キ</sup>北の地点にある南北約300<sup>メートル</sup>、東西250<sup>メートル</sup>で面積58000<sup>平方メートル</sup>、標高410<sup>メートル</sup>ほどの丘陵が「白河関跡」として国の史跡に指定されている(白河市および白河観光物産協会ホームページ参照)。

現在、この丘陵には白河神社が鎮座しており、境内には松平定信によって1800年に建立された古関蹟碑や発掘調査によって明らかになった因法師、西行、松尾芭蕉など



現在に至るまで人知れずひっそりとたたずんでいた白河関跡を伝える碑



白河神社は東北地方の高校に通行人形を出して高校球児を応援している

### 異世界への入り口に思いを馳せる

## 詠み継がれてきた幻の古関

安時代の頃である。当時は蝦夷の南下や人、物資の往来を取り締まっていたようである。その後は機能を失ってしまいいつもと場所さえ忘れ去られていた。そのため実際の場所とは推定であるが、白河藩主

中世の遺構などがあるがそれほど大きな観光施設とはいえない。このように実際の白河関は機能を失った平安中期以降から現在に至るまで人知れずひっそりとたたずんできたのである。

多くの著名な歌人俳人が思いの作品を残している。白河の関という歌枕はみちのくという異世界への玄関口の象徴として重要な文化的役割を果たしてきたのである。

「甲子園の優勝旗は白河の関を越えられない」というシンクスを最初に言い始めたのは誰だったのか知るすべはないが、世間一般にこれほど受け入れられたのは白河の関がその象徴性を現代にまで保つ

松平定信が行った古文献や古老への聞き取り調査による断定および59(昭和34)年以降の発掘調査の結果により、東北本線白河駅から南方約12<sup>キロメートル</sup>、栃木県との県境からは約

一方で白河の関は歌枕としても使われていた。歌枕としての白河の関は現実の場所が失われていた期間も都人の間

「象徴としての白河の関」

「象徴としての白河の関」